会議録(要点録)

会	議名	第7回 第4次八王子市教育振興基本計画策定検討会
日	時	令和7年2月5日(水)午後7時00分~8時00分
場	所	八王子市役所 本庁舎 801会議室
出席	参加者	◎川島弘嗣、○大宝院清孝、増田正弘、三浦壮次、中村八重、佐藤ますみ、櫻井励造、矢ケ﨑由香、小室裕美、小林七海◎:座長○:副座長
者氏名	教育委員会事務局職員	長井優治 教育総務課長、狩野貴紀 統括指導主事、志村亮介 統括指導主事、福島裕子 統括指導主事
П	事 務 局	三枝信博 教育総務課主査
欠 席 者 氏 名		田島裕子 生涯学習政策課長
次第		1 開会 2 議題 (1)第4次八王子市教育振興基本計画(素案)パブリックコメントの実施結果に ついて (2)第4次八王子市教育振興基本計画(案)について 3 その他 4 閉会
公開・非公開の別		公開
傍	聴 人 数	なし
配布	寸 資 料 名	・次第 ・資料1 第 4 次八王子市教育振興基本計画(素案)パブリックコメントの実施結果 について ・資料2 第4次八王子市教育振興基本計画(案)について ・参考資料 第6回策定検討会反映状況一覧表

	会議の内容
	1 開会
	2 議題
事務局	「第4次八王子市教育振興基本計画(素案)パブリックコメントの実施結果」及び「第4次
	八王子市教育振興基本計画(案)」について説明。
座長	各施策について、御意見等をいただきたい。
参加者	全体の意見者数が224名、そのうち小・中学生が216名、大人の方が8名とあるが、こ
	の8名の属性は把握しているか。
事務局	属性は、把握していない。
参加者	101番の御意見にある「片手落ち」という表現は、不十分さを表していると思うが、今は
	あまりこのような表現はされないと思う。
	170番以降の高尾山学園に付いている枕詞には、「不登校特例校」と「学びの多様化学
	校」の2種類がある。現在は「学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)」と呼ばれてい

るので、統一した方が良い。

171番の「「バーチャル・ラーニング・プラットフォーム」を活用し、オンライン等を活用した支援を進めていく」という回答に対し、172番・173番では「御意見をいただいた「オンライン学習」や「オンライン登校」などの多様な学びの対応につきましては、先取りするのではなく、その施策の有用性について今後の他自治体の動向を見ながら、その整備について検討していきます。」と回答していることから、少し矛盾しているように感じ取られる。172・173番の回答で、「その施策の有用性について、今後の他自治体の動向を見ながら、その整備について検討していきます。」とあるが、「他の自治体がどうだからこうだ」という考え方は八王子市らしさが感じられない。

204番の御意見を踏まえて、素案に書かれていないことに関して御意見を出してくれるというのは、この内容をかなり読み込んでいることが分かる。私自身も、主権者教育については、これまでの策定検討会を通じ、強調して伝えてきた。204番の御意見の中で、施策13「主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」の「施策の方向」3番目にある内容に、主権者教育に関することが掲載されているが、もう少し踏み込んだ内容を盛り込んでも良いと思う。

座長

子どもからの率直な意見が多く、パブリックコメントの制度を子どものうちに知る良い機会になったと感じる。それに対し、大人たちが真摯に答えを出して対応するという事も大切だ。子どもたちからの意見に対して、市教育委員会が内容に沿って回答をしていることを学校の先生から子どもたちに伝えてほしい。そうすることで、子どもたちの意見がしっかりと伝わっていることが実感できると思う。

不登校の児童・生徒に対して、国の方針としては「学校にどうしても行きなさい」という訳ではなく、「色々なところで学んでも良いんだよ」という形を推進している。八王子市のスタンスとしては、不登校を無くすというよりも専門的なケアを受けない子どもをゼロにするという方向ですすめていると思うので、そのことを「市教育委員会の考え方」に書き込んだ方が良いと思う。

パブリックコメントの答え方について、52番を見ると「現状の中学校の学校選択制を見直さない限りは継続性の確保が難しい」という御意見に対しての回答が示されていないと思うので、追記してもらいたい。

32・33・34・336番には「勉強ができるスペースが欲しい」と、子どもからの素直な意見も届いているので、市民からの要望があることを承知してほしい。生涯学習センターで行っているようなことを市民センターでも実施してみるなど、費用はかかると思うが検討してほしい。

参加者

170~173番の不登校に関する御意見について、「高尾山学園」の枕詞については、整合性を示す必要があると思う。計画案95ページの「用語の説明」にある「高尾山学園」の説明には「学びの多様化学校」という文言が入っていないので、「不登校特例校」や「学びの多様化学校」も合わせて説明文の中に取り入れると分かりやすくなると思う。

計画案に別室登校支援についての記載が見当たらない。施策9「不登校児童・生徒への支援の充実」にも反映させた方が良いと思う。

事務局

御意見にあったように、現在は「学びの多様化学校」と呼ばれているが、以前までは「不登校特例校」だった。今は、「学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)高尾山学

園小学部・中学部」となっているので、表現を統一する必要がある。

171・173番については、文言の整理が必要だと感じている。「専門的な相談・指導を受けていない子どもたちをゼロにする」という目標を掲げているが、こちらも掲載する必要があるかは検討する。

別室指導支援員の配置状況については、令和5~6年度の配置が5校、令和6~7年度 の配置が20校とすすんでいるところではある。別室登校支援については、表現を検討す る。

副座長

施策9「不登校児童・生徒への支援の充実」について、「主な取組」の1番目に、「居場所づくりの検討(別室登校)」という表現を使った取組を追記する必要があると思う。

事務局

不登校対策の取組について、給食センターや図書館などと連携をはかりながら、子どもたちが専門的な相談・指導を受けられるように居場所の確保をしている。持続可能な別室登校をどのように運営していくかも含めて考えると、今後の不登校施策に別室は居場所づくりも含めて重要なことなので検討する。

副座長

317番の働き方改革の意見の中に「子どもたちの活動を極力減らすことなく、働き方改革が行えるように」とある。市教育委員会からの考え方の中に、スクール・サポート・スタッフや、副校長補佐など色々な外部人材の方々に支えていただいていると感じている。施策25「学校における働き方改革の推進」について「主な取組」の4番目には「スクール・サポート・スタッフや、副校長補佐、学年補佐等のサポート人材の配置」とあるが、引き続き継続をお願いしたい。さらに、「拡充」や「配置の拡充」などに変更ができないか検討してほしい。81ページの「指標一覧」に「月当たりの時間外在校等時間が45時間を超えている教育の割合を0%にする」とあるが、学校の現状を考えると高い目標であると思う。外部人材は、業務を減らしていくのにとても効果的だと思っている。

参加者

この計画が全て実現することができたら子どもたちにとって、充実した学校生活になると思う。小学生がパブリックコメントを実施するにあたって、自分たちが住んでいるところで大人たちに求めていることなどを考えられるきっかけとなり、計画として良い取組になると思う。給食について、多くのコメントが見られたが地場産物を使用すると食育につながっていくと思う。

参加者

パブリックコメントを実施する際に、小・中学生向けの概要版を作成したが、現場からは 「内容が難しい」との声があった。第5次計画策定の際は、小・中学生版とそれぞれに分け て作成してもらいたい。

参加者

パブリックコメントに参加していること自体が、主権者教育そのものだと思う。できるだけ、子どもたちにもそのような機会を与えてあげることが主権者教育につながると思う。

参加者

施策4「いじめ防止対策の推進」について、いじめ防止の大前提としてお互いを尊重しあう「他者理解」の概念が計画に表記されていないと思う。自分以外の人たちの考えを理解していくことがいじめの防止につながっていくと思う。その要素をこの計画案の中に取り入れることはできないか検討してほしい。

参加者

2番目の意見の中に「学び合えるように」とあるが、「学び合い支え合えるように」という表現は、あまり違いがないようで大きな違いがある。「学ぶ」ことはインプットであって、「支え合う」というのはアウトプットに近いことだと思う。学ぶだけでなく、学びをどう活かしていくかというのが、支え合う社会の形成を担っていくと思っている。回答の中にも、それは意

	図されていると思うので、表現を改めても良いと思う。
	パブリックコメントにかかわることが主権者教育につながるというのはその通りだと思
	う。小・中学生に向けての意見はもちろんだが、第5次計画策定の際には高校生や大学生
	からも意見を提出してもらえるよう、検討してほしい。
	3 その他
座長	次回の開催予定を事務局からお願いする。
事務局	次回の日程は令和7年2月28日(金)、場所は市役所本庁舎8階801会議室。時間は
	午後7時からを予定している。
	次回の開催通知、会議資料については、後日、電子メールにてお送りする。
座長	では、本日はこれにて閉会とする。
	4 閉会